

体で覚える新専門医制度ワークショップを開催しました

平成 29 年 4 月から新専門医制度が施行されます。

しかしながら、説明会を聞いても理解に苦しみ、どう対応したら良いか悩んでいる施設も多いと思います。

FUJIYAMA-NET では 7 月に新専門医制度勉強会を都内で開催しました。一方通行の講演では、その時は理解できたように思いますが、時間の経過とともに知識も消失、断片的な情報しか提供されない現状では対応策すら講じられないというのが実情です。

このようなこともあり、今回は「体で覚える新専門医制度」題し、話を聞くだけでなく、体を動かしてこの制度を理解しようと企画いたしました。

冒頭の基礎的知識確認クイズは、テレビのバラエティー番組にあるようなものであり、参加者は正解・不正解どちらかのコーナーに移動、その後どちらが正しいかを述べ、補足説明をすることで理解を深めました。

「あの問題は○のコーナーに移動して正解だった。」という記憶を体のどこかに残すのが狙いです。

午後の最初はこのテストの結果も踏まえ、伊藤 俊之氏による新専門医制度全般についての講義としましたが、少人数ということもあり、日頃理解に苦しんでおられる参加者の方々から初歩的から専門的内容まで多くの質問がありました。

ネット上から多くの資料を検索することはできますが、それらを噛み砕いて理解するのは極めて難しく、やはり対面してやりとりをすることが新専門医制度理解の近道ではないかと痛感しました。

そして最後は今回の目玉であるグループ作業です。

切実な問題である「これからしなければならないこと」をテーマとし、これを市中病院 1 グループ、大学病院 2 グループとして進めました。

これまで多くの説明会があったと思いますが、「なにをしなければならないのか？」というごく基本的な疑問に答えてくれたものはなかったかと思います。

特に市中病院の方々には危機感を持っており、今回の WS の成果を持ち帰り、病院としての対応を考えるとということもあり、その意味からも貴重なものであったと思います。

最後の参加者一言メッセージの中で、「こんなに理解できずに悩んでいる方がいるので安心した」との発言がありましたが、これは喜ぶべきか、悲しむべきか・・・。

日本専門医機構は制度理解のため、より一層の努力が必要ではないでしょうか。